

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201718		
法人名	社会福祉法人 愛成会		
事業所名	グループホーム自由ヶ丘		
所在地	青森県弘前市大字金属町5-30		
自己評価作成日	令和4年9月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりがその人らしい生活を送ることができるように支援している。 ・趣味や得意な事を継続的に行い、楽しみや生きがいになるように働きかけている。 ・健康を維持でき、持病が悪化しないよう、普段から身体や心理状況観察し、看護師にも相談をしながら、早期に対応をしている。 ・ケアカンファレンス以外にも、利用者の対応で気になった点は、都度職員間で相談しており、速やかな対応に繋げている。 ・利用者と職員は日常の様々な作業を協力して行い、共に生活をする環境作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>弘前市内でも歴史と伝統がある社会福祉法人が経営しているグループホームであり、地域とのつながりが深く、ホームと共に利用者も地域住民として受け入れられ、地域密着型を実現している。</p> <p>また、利用者一人ひとりが自分らしく暮らせるよう、個別具体的な介護計画を作成して、日々の支援に取り組んでいる他、利用者の嗜好に合った食事を手作りで提供し、食事の準備も利用者と職員が一緒に行う等、家族的な雰囲気の中、利用者本位の暖かいサービス提供に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達をご利用様が地域の中で自分らしさと生きがいを保ちながら安心した生活ができるよう支援いたします」という理念を掲げ、目のつく場所に掲示している。	地域密着型サービスの役割を反映させた理念を掲げており、ホーム内に掲示する等して共有している。職員は会議等で理念を確認し、理念に基づいたサービス提供を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、総会、町内の催し(側溝掃除)に参加している。新型コロナウイルス対策のため、交流が少ないが、施設の敬老会の際には、民生委員や町内会長へ案内し、折り詰めを渡している。	敷地内に法人の他事業所もあり、地域に認識されたホームとなっており、町内会にも加入している。コロナ禍のため、地域との積極的な交流は難しいが、ホームの敬老会の際に町会長や民生委員に案内や行事食を渡す等、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学は新型コロナウイルス対策のため実施していないが、施設内に入らず、玄関先から雰囲気を見てもらっている。Instagramを開設し、利用者の日常の様子や取り組みを発信している。看護師を養成する学校の実習生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス対策のため、施設では開催していない。運営推進会議運営規定を設け、奇数月(2ヶ月に1回)に書面で、施設の動き、行事の予定と実施報告、事業所の取り組みを報告し、広報誌を配布している。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催してきたが、コロナ禍により施設への出入りを制限していることから、現在は資料を送付して、メンバーの意見を伺うようにしている。また、外部評価結果や目標設定等についても報告し、ホームへの理解を深めてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス対策のため、市職員や地域包括支援センターの職員の出席はないが、会議資料や広報誌を提出している。事業所内で生じた問題や困り事は随時相談し、助言を受けている。	新型コロナウイルスへの対応について、市から指示をいただいている。また、福祉事務所との連携や介護保険に関する事等、適宜行政に相談しながら、ホームの運営を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束撤廃についてのマニュアルがあり、身体拘束はしない方針である。身体拘束撤廃委員会を3ヶ月に1回開催し、ケアの振り返りを含めて検討している。外部研修に参加した場合は全職員に報告し、内容を共有している。玄関は夜間(20時から5時)以外、施錠していない。	ホームでは身体拘束をしないケアに取り組んでおり、マニュアルや同意書、記録様式を整備している。また、身体拘束撤廃委員会も定期的開催しており、管理者・職員共に、身体拘束の利用者への弊害について理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、研修等でも高齢者虐待について理解を深めている。虐待につながるような不適切な場面がないか、日頃から観察し、職員同士で確認合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、その重要性を十分に理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等を用いて時間をかけて説明し、契約の締結をしている。入所後も本人や家族の疑問点等を聞き、不安の解消につなげている。契約の変更が生じた際は詳細を説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気兼ねなく職員に話ができる雰囲気作りをしている。毎年、全家族に満足度調査を実施し、サービスの見直しにつなげている。利用料の支払いで来園した際に日常の様子を伝え、受診結果や特変時等の健康面については、都度連絡をしている。苦情や要望は職員間で検討し、周知や改善に向けている。施設内に目安箱を設置し、法人には第三者委員会を設けている。	苦情受付体制について重要事項説明書に明記し、入居時に説明しており、出された意見等を検討して、速やかに対応を行う体制を整備している。職員は日々のケアを通して利用者個々の状況を注意深く観察し、表情や言動等から意見等を察して、さりげなく聞き出せるように努めている。また、利用料の支払い時や面会時等、家族に意見や要望を聞き、把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、運営会議や職員会議を開催し、現状把握と問題解決に向けて検討しており、意見交換の場としている。	定期的に職員会議を開催しており、ホームの運営や日々のケア等について、職員が意見を出せる機会を設けている。また、勤務や異動の要望も申し出ることができ、働きやすい環境作りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では人事考課制度を取り入れ、年2回の賞与に反映される仕組みとなっている。一般職員から総合職員、パートから一般職員へ登用する仕組みを確立している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、内部・外部(オンライン)研修への参加を実施している。研修後はレポートを提出し、外部研修では復命報告と共に報告書を回覧しており、全職員へ周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策の関係で他事業所と交流する機会は少ないが、新型コロナウイルス感染対策では、情報交換や助言を受けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問調査を行い、本人や家族の思い、生活状況等、実態把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の訪問調査や面談では、本人や家族の介護に関する意向を確認し、時間をかけて話し合いをしている。不安解消のため、実際に生活する場の見学を勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式に基づいてアセスメントを行うと共に、本人へも意向を確認し、実態把握、問題の抽出を図っている。また、本人のあるべき姿に近づけるような支援は何かを検討し、優先順位をつけて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に料理や郷土の習慣、子育ての体験、新聞読み等を通して会話のやり取りがあり、一緒に作業を行い、生活者同士の関係がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には利用者の日々の様子について都度連絡し、相談し合っている。また、Instagramを開設し、事業所の情報発信に努めている他、月1回広報誌を発送し、利用者の様子を家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス対策のため、訪問の受け入れは行っていないが、玄関の扉越しの面会や電話の取り次ぎ等を行い、馴染みの関係を継続できるように支援している。	職員は利用者の生活歴を把握し、本人が生活して馴染んできた関係を大事に、日々の支援に努めている。現在はコロナ禍のため、施設への出入りを制限しているが、電話等のやり取りをお手伝いして、交流は継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、職員間で情報を共有して、良好な関係を築けるように配慮している。個人を重視しながらも、オープンスペースを利用する機会を作り、お互いに交流できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族には退所時に、必要時に応じて相談を受け入れる体制があることを伝えている。また、家族からの要望によっては、関連機関の情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、動作等の観察により、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族等からの情報を参考に、本人の立場になって検討している。	担当職員の他、日々の利用者の状況について職員全体で見守り、朝夕の申し送り状況で状況を報告しながら、思いや意向の把握に努めている。また、思いの表出が難しい利用者については、様子を観察したり、家族等からも情報収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族や担当ケアマネジャー等を通して、生活状況や入所に至る経緯等の情報を得たり、利用者本人との会話の中からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や個別経過記録にはその日の行動や変化を記載し、状態の把握に努めている。1日2回の申し送りにて、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には介護に対する意向、意見、要望を聞き、介護計画に反映させている。ケアカンファレンスでは本人の困り事を確認、検討し、介護計画を作成している。定期的に立案や見直しを行っている他、身体状況変化に応じて、適時見直しをしている。	定期的にモニタリングを行って再アセスメントをし、利用者や家族の要望等に変化がないか聞き取りをして、個別具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。また、利用者の状態変化に合わせ、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個別経過記録にはその日の行動や変化を記載し、状態の把握に努めている。1日2回の申し送りにて、情報共有を図り、カンファレンスで検討事項を取り上げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	趣味活動や家族行事等、突発的なニーズを都度検討し、対応する体制がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長や民生委員、地域住民に運営推進委員や防災協力委員をお願いし、地域とのネットワーク構築につながるよう努めている。家族には通院や買い物の支援、協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望によって、入所前のかかりつけ医への通院を継続できるように支援している。受診対応も行っており、家族と協力しながら、健康管理に努めている。	これまでの受療状況を把握し、入居前の医療機関へ通院できるように支援している。また、通院方法について家族と相談し、協力を得ながら、希望する医療機関の受診を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模多機能ホームの看護職員が兼務しており、健康面の相談や対応をしている。看護師の指示を仰ぎ、早期受診や対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的(週1回)に医療連携室や病棟看護師と連絡を取り、病状を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を確認した上で、事業所で対応可能な範囲において、できる限りの支援を行うことにしている。	看取りは行っていない旨ホームの方針を説明し、重度化や終末期について、入居時に意向を伺っている。法人には特別養護老人ホーム等もあり、ホームでの対応が難しくなった時は、本人や家族と話し合い、適切な機関へつないでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、心肺蘇生法や応急手当、AEDの使用方法を学んでいる。全職員が参加し、知識と技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の小規模多機能ホームと地震土砂災害想定訓練、総合訓練(通報訓練・日中火災想定・夜間火災想定)を年4回実施している。その他、グループホーム独自で年2回、消防訓練を実施している。	定期的に避難訓練を行っており、設備点検についても業者委託で行っている。また、災害発生時に備え、水や食料、寒さを防ぐ暖房機等の準備をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りを傷つけることがないよう、言動に注意して対応している。	利用者は「さん」付けで、本人や家族が納得した呼び方で呼んでいる。職員は利用者の個別性を大事にし、プライバシーに配慮したサービス提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと会話ができる機会を日常的に作り、思いや希望を話しやすいよう、多目的室等の環境を整えている。自己決定がしやすいよう、選択肢や問いかけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて生活できるように努めている。日課はあるが、その時の気分や体調はそれぞれであるため、都度、どのようにしたいか聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や整容は常に気をつけている。髭剃りや化粧等、その人らしい習慣を継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下拵えや盛り付け、片付け等、職員と一緒にやっている。希望により嗜好品を取り入れ、楽しみにつなげている。誕生日の方の外食は行っていないが、好みを聞いて食事に反映させたり、嗜好品を提供している。	食事は職員の手作りで、利用者の嗜好や季節に合わせて提供している。また、可能な限り、食事の準備や片付けを利用者と職員が一緒に行い、家族的な雰囲気の中、食事が楽しみとなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要時、摂取量を記録し、対応策を検討している。嗜好品を取り入れたり、摂取量確保につなげている。法人の栄養士が作った献立に従い、当施設の利用者の好みを勘案し、食材等の調整をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。歯磨きやうがいの声かけ等、必要な部分を職員が介助している。義歯は洗浄剤に浸して清潔にしている。食前には、口角を動かす体操や唾液を刺激するマッサージを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせ、トイレ誘導やポータブルトイレの使用、オムツの種類等を見極めている。尿意や便意が曖昧な方については、間隔や時間帯をチェックし、個々に合わせた誘導、介助をしている。	利用者個々の排泄の記録があり、パターンを把握して声がけし、トイレ誘導を行っている。また、声がけ時は利用者の羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをしており、必要に応じて、医師の指示のもとで下剤等の服用につなげている。毎朝牛乳を提供し、ヨーグルト等の乳製品を献立に加えている。また、腹部マッサージや歩行による運動、多めの水分摂取を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週2回入浴日を決めてあるが、入浴希望の時間や体調に配慮した誘導を行っている。入浴の援助は職員がマンツーマンで行い、必要な箇所を介助している。	利用者の希望に沿いながら、できるところは自分で洗ってもらい、その後に職員が介助するようにしている。また、入浴の方法や順番は特に決めておらず、その日の利用者の状態に合わせて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、いつでも休息してもらえるようにしている。疲労感やその時の気分を考慮し、無理に離床を促していないが、休息と活動のバランスを考えながら、できるだけ日中は活動性を高めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の薬情報を基に個別の内服薬一覧表を作成し、常時確認できる状態にしている。服薬内容に変更があった場合は申し送りや伝達し、全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣や趣味等、その方の能力を活かし、役割を意識付けながら生活の一部としている。また、ケアプランにも反映させている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策のため、外出は実施していないが、行事では園外(テラス)での食事会を実施し、普段とは違った雰囲気となるように企画した。	コロナ禍で外出を制限しているが、その中でも工夫しながら、テラスでの食事会を企画する等、利用者の楽しみや気分転換となるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は小遣い程度の金銭を所持している。外出先での買い物等、自身で支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙の送付等、都度援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は天窗もあり、自然光や風が入る空間になっている。草花や木々、畑の作物が見え、季節を感じる事ができる。その他、季節に合った飾り付けを行っている。各居室内や食堂にはエアコンや床暖房が完備され、快適に過ごすことができる。	ホーム内の温度や湿度を適切に管理しており、音や光等も不快にならないように配慮している。また、ホーム内の掲示物を工夫し、季節の移り変わりを感ずることができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂内にソファや小上がりを設置し、雑談や寛ぎの場となっており、一人でゆっくり過ごせるスペースとなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族へ、自宅で使い慣れた物や馴染みの物等を持ち込んでいただくように働きかけている。壁には好きな写真や作品を掲示し、花を活けたり、人形を飾る等、利用者の希望に沿ったスペース作りを支援している。	入居時に馴染みの物の持ち込みを働きかけており、利用者個々に合った、生活しやすい居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できない部分を支援するという基本姿勢により、過剰なサービス提供にならないように努めている。		